

会派視察・研修報告書

会派名 市民ネットワーク

代表者名 井上あけみ

1 日にち	令和8年1月23日(金) 14:00~17:00
2 視察先 研修名、主催者及び会場	(株)廣瀬行政研究所 主催 2部:「地域ぐるみでつながりを再構築するエリアプラットフォーム戦力」 オンライン自宅
参加者	井上あけみ
4 調査・研修の テーマ	自治会を含めた住民主体のまちづくり
5 主な内容	<p>講師：二宮雄岳氏 (株) エンパブリック 共創コーディネーター</p> <p>旧来の住民と新住民、勤労者と定年を迎えた人、宗教の自由等、さらに、外国人の増加や個人情報の管理等、町内会の運営をめぐっては様々な課題が増え、組織率がどんどん低下している中で、多様な人がつながるプラットフォームづくりが提案された。</p> <p>そのためには共有できるものが必要で、まず、顔見知りになる事。それは商店、地元企業、祭り、スポーツ、文化、ボランティア、地域活動、井上が付け加えれば、子育てグループがある。さらに、地区社協(社会福祉協議会)これらがつながるプラットフォームに自治会も参加していく事が必要ではないかという事だ。</p>
6 所感、提言事項、 課題等	<p>自治会そのものについて、旧来の活動をそのまま受け継ぐことには、限界がある。</p> <p>その他の活動と結びつき、その中の1団体として、その利点を生かす事でつながりが生まれ、活性化につながると考える。</p> <p>研修では例として、子どもの遊びをつくるグループ団体と自治会が連携する事で、学校の校庭が借りやすくなり、この活動を役員が応援する事で交流が生まれ、楽しい企画となったことが挙げられていた。</p> <p>また最後に、講師からは、一番の基本は、地域に、つまり多治見市で言えば、多治見市と近隣に働く場がある事が大事であるとの発言があった。経済が衰退すれば、活動もしぼんでくるとのことだ。</p> <p>この発言に実家の過疎で苦しむ田舎を思い出し、田舎をどうするかとつい、そちらに思いが行ったが、企業誘致をするための広い土地がない多治見市において、市街化調整区域の長期的な見直しも必要ではないかという思いを強くした。</p>
7 写真等 ※視察の場合は必須、 研修の場合は任意	資料の一部を別添付します。

※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。